ステンレスカンパニー

主な製品・No.1

・ステンレス鋼（平鋼・形鋼・丸棒・鉄筋）
・ステンレス鋼構造物エンジニアリング
・ステンレス形鋼・平鋼：国内生産シェア1位

多種多様なステンレス鋼材［平鋼・形鋼・丸棒・鉄筋］を供給するとともに、ステンレス鋼構造物のエンジニアリング機能［設計協力・工場製作（部品加工・部材製作）・現場施工］を強化し、お客様のニーズにお応えしていきます。そして、「水素社会の実現」「社会インフラの再構築」などに貢献していきます。

執行職
プレジデント
中川 英樹

強 み

●国内初の熱間成形ステンレスアングル生産などの技術力に基づく多様な用途・ニーズに応じた鋼種・形状・寸法で4,000種類を超える商品レパートリー
●ステンレス鋼材メーカー唯一の「設計協力・工場製作（部品加工・部材製作）・現場施工」に対応するステンレス鋼構造物エンジニアリング技術

機 会

●社会インフラの老朽化に伴う高耐久化ニーズの高まりを受けたステンレス鋼の需要拡大
●脱炭素社会に向けた天然ガス、アンモニア、水素などの利用促進に伴うステンレス鋼の需要拡大
●コロナ禍を受けた医薬品工場の国内新設などサニタリー性に優れるステンレス鋼の需要拡大

リスク

●ステンレス鋼材の輸入増加に伴う市場競争の激化（販売価格の下落）
●ステンレススクラップの海外流出に伴う調達コスト上昇
●ステンレス鋼材を含む鋼材の国内需要低迷

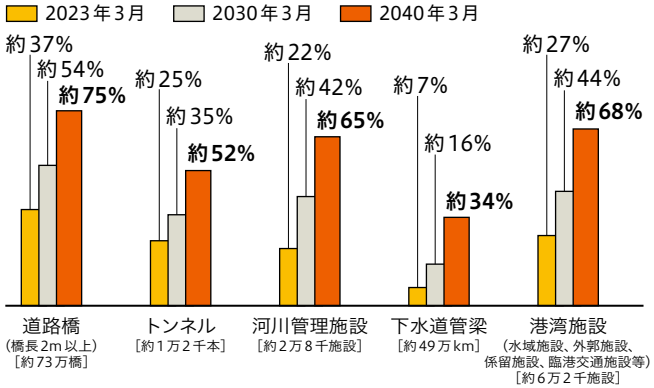
事業環境

ステンレス鋼材の内需（国内見掛け消費）は約200万トンと低迷していますが、鉄鋼消費におけるステンレス鋼の活用比率は拡大すると見込んでいます。建築分野（医薬品・食品・飲料工場などの新設・設備投資）、土木インフラ（老朽化する橋梁、河川管理施設、港湾施設などの補修・更新・新設）、エネルギーインフラ（天然ガス、アンモニア、水素などの新エネルギーおよび再生可能エネルギーのプラント建設）、自動車分野（水素を動力源とする乗用車・商用車および水素ステーションの普及拡大）、造船分野（ケミカルタンカーの更新、船舶の燃料転換、LNG運搬船の新規建造など）などさまざまな分野でステンレス鋼需要の伸びが期待されています。

社会にもたらす価値

ステンレス鋼は耐食性・耐久性に優れるだけでなく、意匠性、高温強度、耐酸化性、低温靭性、非磁性、高延性、耐水素ガス脆性、サニタリー性など、普通鋼などに比較して、さまざまな優れた特性を有しています。これらを活かして、建築分野、土木分野、エネルギー分野、自動車分野、造船分野などのさまざまな需要に対応していきます。

● 建設後50年以上経過する社会資本の割合（2023年3月時点）

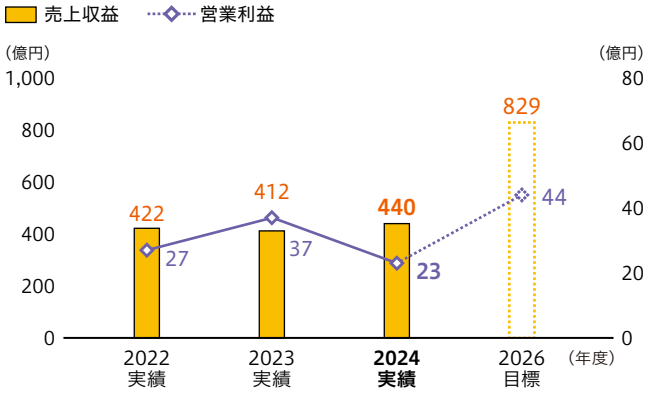


出典：国土交通省資料「社会資本の老朽化の現状」抜粋

2024年度の実績

販売価格の値下がりがあったものの、前年度比較で販売数量の回復により、売上収益は前期比6.8%増益の440億円となりました。

● 売上収益/営業利益



中期経営計画アップデートと今後の取り組み

日本の鉄鋼内需に占めるステンレス鋼の割合は3%程度であり、欧州と比較すると、1%程度少ない状況にあります。今後、日本国内においても、さらにステンレス鋼の活用が拡がると見込んでいます。

ー 形鋼などのシェア拡大

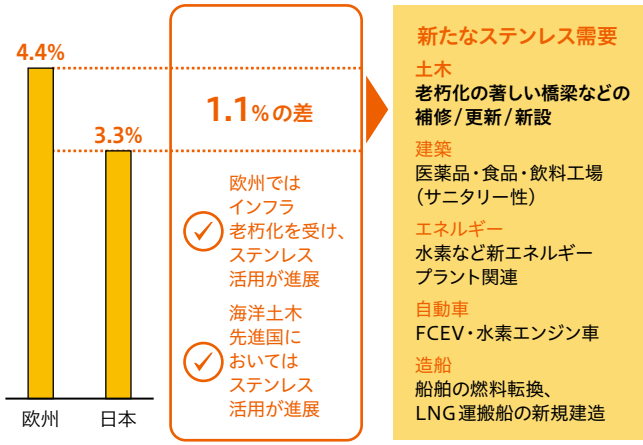
『新規分野の需要開拓』として、老朽化した土木インフラの補修・更新・新設に耐久性に優れるステンレス鋼の活用を拡げるため、適用事例の積上げ、基準化・標準化などさまざまな普及促進を図っていきます。また、ステンレス鋼は鋼種によっては、極低温–25.3℃の液化窒素環境でも、700気圧の高圧水素ガス環境でも、優れた延性・靭性を示すことから、水素の製造・液化・輸送・貯蔵・消費の水素エネルギーチェーン全体を通して、その活用が見込まれます。国家プロジェクトを通じた基準化・標準化、高圧水素用途の開発鋼の市場投入などに取り組んでいきます。

『つくりの改革』として、ステンレス鋼のさらなる普及を促すため、良品廉価なモノづくりを徹底していきます。具体的には、ステンレス鋼製造プロセス改革の第3ステップ:形鋼精整の設備増強・整流化を進めるとともに、後戻りしない品質対策の徹底、労働生産性の向上などを図っていきます。また、市場ニーズに対応した商品レパートリー拡大、グリーン鋼材化への対応も図っていきます。

ー 部材・部品ビジネスの拡大

子会社の愛鋼株式会で2019年に立ち上げた衣浦第2工場を最大限活かし、建築分野(医薬品・食品工場などの新設・設備投資)、土木分野(橋梁、河川管理施設、港湾施設などの補修・更新・新設)、エネルギーインフラ(天然ガス、アンモニア、水素などの新エネルギーのプラント建設)などに確かな品質の部材・部品およびステンレス鋼構造物を提供していきます。

● 日本・欧州の鉄鋼消費に占めるステンレス比率(2022年当社調べ)



TOPICS

ステンレス鋼構造物のエンジニアリング機能強化 ～愛鋼(株)「一般建設業の許可」取得～

当社は2030年ビジョンに基づく成長戦略の一つとして、ステンレス鋼構造物のエンジニアリング機能強化を進めています。その一環として、子会社の愛鋼株式会社(以下 愛鋼)が、「一般建設業の許可※1」を取得しました。当社では、1996年にステンレス鋼構造物のエンジニアリング部門を立上げて以来、お客様のご要望に応じた設計協力・工場製作・現場施工を通して、ステンレス鋼構造物の普及に努めてきており、2030年には現在の5倍強である50億円の売上を目指しています。

この成長戦略実現のため2019年に工場製作内製化の拠点として愛鋼 衣浦第2工場を立ち上げ、主に土木・水処理分野を中心にステンレス鋼構造物の製作を手掛けてきました。2023年には「ステンレス建築構造物製作工場※2」認定を取得し、建築分野、特に需要が旺盛な医薬品・食品・飲料工場建設に伴うステンレス鋼構造物の工場製作・現場施工にも注力してきています。このたび、愛鋼が「一般建設業の許可」を取得したことにより、当社グループで手掛けられる現場施工の規模が拡大します。これらの取り組みを通じて、当社グループはステンレス鋼構造物の普及に貢献していきます。

※1 許可建設業の種類は「鋼構造物工事業」
※2 一般社団法人日本鋼構造協会 建築鉄骨品質管理機構が、ステンレス建築構造物の鉄骨製作の品質確保に対する技術力を評価し、安定した品質および性能の製品を供給できる工場を認定する制度